



成長分野で、ニッチを深耕

幅広い事業をラインナップ

卸売事業の大丸興業は、日本、中国、アセアンの3極を中心にビジネスを展開する商社として、多種多様な製品・サービスを提供し、原料調達からアフターケアに至るまで、すべての業務でお客様にご満足いただけるよう、時代と市場ニーズへの対応に取り組んでいます。

主な取扱商品は、製品分野では、食品、電子部品、金属樹脂加工品、包装資材、化学品など、サービス分野では、情報システムに関するソリューション提案、損害・生命保険代理店業を通じた保険サービスの提供など、幅広い事業を展開しています。

中国、アセアンでの事業展開を強化

大丸興業は、国内では東京、名古屋、大阪など5拠点、海外では上海、香港、南沙、台北、バンコク、ホーチミン、ヤンゴン、ジャカルタの8拠点、合計13の営業拠点を有しています。

海外拠点のある中国、アセアン地域の人口は約19億人と、世界人口70億人の3割弱を占めています。GDPは、現在、世界全体の約15%にとどまっていますが、豊富な労働力や天然資源を背景に、今後さらに経済成長が見込まれる地域です。

これまで同社の海外事業は、国内外から原材料や商品・製品を仕入れ、国内のお客様に納品するビジネスが中心でしたが、今後は中国、アセアンに多くの拠点を持つ強みを活かし、海外事業を強化していきます。2012年1月にはアセアン地域における事業基盤構築のため、タイに現地法人「大丸興業タイランド」を設立。アセアン域内における樹脂原料、自動車部品、食品原料の取扱い拡大のほか、タイ国内での購買・販売、および輸出入業務を行うとともに、アセアン地域の中核拠点として域内の4拠点を活用し、取引の活性化、拡大をはかっていきます。

また、中国市場については、上海にある「大丸興業国際貿易」を起点として、電子デバイス分野における新たな取引先様の開拓強化に加え、自動車・金属関連や産業資材、繊維・雑貨等の取扱商材の拡大や、新規ビジ

ネスの展開を進めるなど、中国国内ビジネスの拡大をはかっていきます。

さらに2015年1月には、台北駐在員事務所を現地法人化し、「台湾大丸興業」を設立。日本から金属・自動車、化学品、電子部品などを輸入し、台湾国内ならびに台湾を拠点に海外への輸出の拡大をはかっています。

成長分野へ重点化

こうした海外拠点を活用した事業展開を強化するとともに、各事業における成長分野へ重点化した取り組みを進めることで、持続的な成長を目指しています。

具体的な事例として、金属樹脂加工分野では、自動車の技術革新が電気へと大きく転換していく中で、環境対応車向け量産部品の納入に向け、試作案件から積極的に取り組んでいます。化学品分野では、大手原料メーカーの代理店として土木資材などの原料を販売するとともに、原料の販売先において製造された容器などの製品を仕入れ、化粧品や食品メーカーなどへの販売を行なっています。

グループ各社とのシナジー創出

大丸興業は、海苔、椎茸、カニ缶、調味料などの中元・歳暮ギフト好適品を大丸松坂屋百貨店と共同開発し、全国の大丸、松坂屋の各店で販売しています。原材料の選別や加工

方法等、品質基準を明確にし、生産から納品までを一手に請け負い、消費者の方々に原産地証明や生産エビデンスも万全で、こだわりの商品を安心とともにお届けしています。

また、同社はワインや食材をフランス、イタリアから直輸入し、大丸、松坂屋の各店で販売しています。フランスの著名シェフ、ポール・ボキューズ氏の推奨ワインをはじめ、品質・香り・風味にこだわり作り上げられた逸品をセレクトし輸入しています。

こうしたノウハウを活かし、2010年3月から大丸松坂屋百貨店・酒売場の運営を受託するリテールビジネスに参入しました。大丸心齋橋店、京都店、神戸店の3店舗からスタートし、その後順次、受託店舗を拡大。2015年5月現在、大丸梅田店、東京店、札幌店、松坂屋名古屋店、上野店、静岡店を加えた計9店の基幹店舗で酒売場の運営を受託しています。

このような、企画・調達から販売までを一貫して請け負う売場運営の受託は、百貨店の業務運営の効率化にも寄与しています。今後は、直輸入機能を活かした取り扱い商材の拡大や、販売力の強化により事業収益の一層の向上をはかるとともに、百貨店だけでなく、通販事業や建装、レストラン等グループ内各社との連携を深め、さらなるシナジーを追求していきます。

